

ニューガラスフォーラム発足の頃



京都大学名誉教授

作花 濟夫

ニューガラスフォーラム発足時に誰もが願ったフォーラム自身による産官学の共同研究が「ナノガラス技術プロジェクト」として実現し、素晴らしい成果が得られたこの時期に創設 20 周年記念を迎えられることはご同慶の至りであり、創設に関わらせて頂いたものとして喜ばしい限りである。ニューガラスフォーラムの結成と発展に寄与された通産省、ガラスおよび関連の工業界ならびに学界の皆様のご炯眼とご努力に改めて敬意を表し、心からお慶び申しあげたい。

私のニューガラスフォーラムは 1985 年 5 月 22 日、窯業協会昭和 60 年年会の会場の岡山郵便貯金会館に通産省窯業建材課の横山勝雄氏（現在、光産業振興協会光 IT 推進部長）が私を訪ねて来られたことから始まった。私は京都大学化学研究所でガラスやゾル-ゲル法の研究に専念しており、通産省と接触することもないので、一体何の話したろうと思うくらい全くの白紙の状態だった。これにたいし、同氏は、新村明窯業建材課長を中心としてまとめられた通産省側の構想や HOYA の鈴木哲夫社長を始め、金井英三旭硝子専務、島 敬 日本板硝子常務、長崎準一日本電気硝子社長などガラス会社のトップの方々や硝子製品工業会の小川晋永氏との懇談を通じて準備を重ねて来られたと思われるが、ニューガラスとは何か、何故ニューガラスフォーラムをつくることがガラス産業にとって重要であるか、産を中心として産官学の共同体として活動することが、如何に重要であるかなどを説得力のある語り口で話されたので、協力を約束した。今から思えば、お膳立てができてから言われるままに動き席を占めておればよいと私に感じさせる横山氏の説得力、ファインガラスでなくニューガラスという言葉が気に入ったこと、私自身ニューガラスの研究をしていたことなどが承諾した理由である。

横山氏のお話の内容をあとで私なりにまとめると、(1)ニューガラスフォーラムというガラス工業発展のための団体をつくるので協力してほしい、(2)ニューガラスの定義と範囲を決めて欲しい、(3)フォーラムの活動を企画する企画推進会議の世話をしたい、というものだった。(2)、(3)の内容はフォーラムの方向を決めるもので肩の荷の重さに愕然とし

たが、7月16日のニューガラスフォーラム発足総会まで2ヶ月もないので、直ちに、案の作成と心の準備に取りかかった。

まず、できるだけ多くのガラス製品をニューガラスの範囲に取り込み、すべてのガラス会社およびガラス関連企業にニューガラスフォーラムに参加していただくこと、また、会員会社にフィードバックできる活動をするを基本姿勢とすることにした。この姿勢と一般に通用するニューガラスの概念の間に矛盾が生じないように、ニューガラスをハイパフォーマンスガラス（高性能ガラス）と定義し、ニューガラスは、光機能、電気・電子機能、磁気機能、熱機能、機械機能、化学機能、生体機能などの機能を持つものであり、また、機能によって分類できるとした。これによると、たとえば、加工によってガラスの強度を高める研究もニューガラスフォーラムに含めることができる。

7月16日のニューガラスフォーラム創立総会直後に第一回の会合を開いた企画推進会議は、1987年にフォーラムが社団法人となるまでほとんど毎月会合を重ね、フォーラムの事業を企画した。座長の私は副座長の旭硝子鈴木由郎氏を始め委員の皆様に助けられてニューガラスの啓蒙活動や講演会、調査研究などできることから始め、実行することにした。当時のことを思い出すと、先端技術の発展とガラス産業の興隆を熱望する産官学の意思に支えられてニューガラスフォーラムの事業は極めて順調に動き出したと言える。

以上、創設時の思い出を記した。その後の目覚ましい活動については、それぞれの世話人がいろいろの機会に機関紙のNEW GLASSに発表しておられるが、主なものをあげると、ニューガラスセミナー、ニューガラス調査、海外調査団の派遣、ファクトデータベースINTERGLADの構築、ニューガラス国際シンポジウム、個々のニューガラスに関する研究会、国際ニューガラス合同研究会、ニューガラス大学院、国際技術交流会議、標準化調査研究会、高温融体物性評価技術の研究開発、情報通信用光機能材料創製技術の研究開発、ナノガラス技術プロジェクトがある。これらの活動の成果は素晴らしいものであるが、とくに日本から世界への発信ができる技術の成果が生まれたことに注目したい。

最後にニューガラスフォーラムの重要な副産物に言及したい。ニューガラスフォーラムの上記のような活動を進めるために、異なるガラス会社の技術者、異業種の技術者、さらに企業人と官、学の研究者が一堂に集まって忌憚のない意見を述べ合い、議論し、場合によっては、一緒に海外調査のために旅行することによって、企業間の壁がとり払われたという言葉は何人ものガラス会社のひとから聞いたことがある。これはニューガラスフォーラムの結成がもたらした思わぬ大きな収穫である。

ニューガラスフォーラムの益々のご発展を祈念して筆を擱きたい。